

Counseling & Only One

(カウンセリングとオンリーワン)



岡崎市副市長
武田 憲明氏

教育随想

私は学生時代の一時期、Counselingを勉強したことがあります。Counselingの実践を通し、対人関係において、その相手方には「無条件の積極的尊重」と「共感的理解」を、そして自分自身には「自己一致」をするという三つの理念の大切さを教わりました。その理念の意味合いは、随分と希薄になりましたが、今でも確かに心の奥底に残っております。

さて、岡崎市に奉職して三十七年の役人人生でも、たくさんの事件、事故あるいは災害などを経験し、多くの市民や関係者の皆さんからの厳しい意見も拝聴させていただきながら、ご理解を賜ってまいりました。その過程を思い起こすと、私にとつてCounselingの三つの理念こそが、今日まで対人関係を築くうえでの潤滑油だったような気がしております。

対人関係のストレスは、公共の場

においても広範囲に発生しております。病院、学校や保育園、市役所などにおいて、いわゆるクレマーとかモンスター〇〇とかという方からの心ない圧迫による、医療従事者、教師、保育士、市職員などの心の痛みや傷を心配するのは私一人ではないと思います。そして、その対処方法の一つとしてCounselingの理念「無条件の積極的尊重」「共感的理解」を生かすことを推奨するものです。

他にも気懸かりなことがあります。巷の一部で、本来なら働き盛りの年代層から「私の(Only one)人生なんだから……」と、逃避的で独自の主張が見受けられることです。カラオケで多くの皆さんが歌う「ナンバーワンにならなくてもいい、もともと特別な オンリーワン」という歌詞を都合よく自分勝手に解釈していらっしやるのではないかと。



世界に一つだけの「Only one」の花を咲かせるためには、その前提として、歌詞のなかにもある「頑張つて」「一生懸命になる」ことが大切なのです。特に次代を担う若者には、そのことを忘れないで、「自己一致」して進んでいくことを切に願います。

(ただの りあき)



平成24年4月1日
4月号
発行・編集
岡崎市教育委員会

今月の紙面

- 教育随想 1
岡崎市副市長 武田 憲明氏
- この人に聞く 2
矢作西小学校「イチゴ名人」近藤 肇氏
- 羅針盤 2
梅園小学校長 二瓶 千秋
- ふれあい 3
新香山中 大久保孝治
- 特集 4
平成24年度学校教育の視点
- お知らせ 6
- フォト・ヒストリー 8
小学校陸上大会選手団 (昭和50年)
- この本を 8



育て、育てられ イチゴ作りと子供たち

矢作西小学校「イチゴ名人」

近藤 肇 氏

「十年くらい前、矢作西小学校の先生から、五年生の子供たちがイチゴを栽培したいと希望をしているので、教えてもらえないかと頼まれました。これが最初でした。お世話になっていてる学校の頼みだから引き受けました。やってみるとなかなか大変でした。でも、終わった後、子供たちが感想文を送ってくれました。やって良かったと思いましたが、卒業文集に『六年間の思い出では、修学旅行の次にイチゴ狩りが楽しかった』と書いた子がいて、本当にうれしかったです。今でも忘れません。」と当時のことを懐かしそうに語ってくれた。

昭和六年、農家の長男に生まれた近藤さんは、家業を継いで五十年。矢



作のイチゴ農家の中心として活躍し、若いころは組合長も務めた。八十歳になった今も畑に出かけ、イチゴを生産している。

現在、矢作西小学校では毎年三年生が一人一鉢のイチゴ（とちおとめ）を育てている。

「夏に長野で一か月ほど低温処理し、結実時期を調整した苗を子供たちに準備します。せっかく育てるイチゴだから、おいしいものいいね。」

子供たちの苗の生育が気になって何度も学校を訪れる。

「鉢植えは露地と違って土の状態が変わりやすいのです。特に水の加減をいつも見ていないといけないのです。具合よく育っているか心配で、よく学校へ行きます。ちゃんと世話しているのに枯れたりしては悲しいからね。予備の苗も用意しています。」

子供たちに教えるなかで、自分も勉強になっていると言う。

「子供たちは、イチゴの生長をとて楽しんでにして一生懸命育ててくれます。病気のことを本やインターネットで調べて、わからないことを質問してきます。専門用語も次々に出てき

て、時々自分も知らない言葉や質問があります。そういうときは自分でもいろいろ調べます。自分の勉強にもなりますね。熱心な子は、学校だけでなく、ハウスまで聞きに來たり、家まで電話してきたりもします。子供たちに負けていられないと思いますね。」

十二月になると子供たちのイチゴも五つ六つと実を付ける。

「子供たちが、『イチゴの色が赤くなってきたよ』と、うれしそうに報告に來てくれると、私もうれしいですね。同時にほっとします。」

子供たちにイチゴ作りを快く教えてくださる近藤さんは、毎年続けてきた理由をこう語る。

「子供たちが一生懸命にイチゴを育ててくれてありがたいと思います。食べただけじゃなく、どういうふうに育っていくかをわかってもらえらるし、これだけ手間をかけて育てていることもわかってもらえるから。熱心に調べたり、生長の気付きを帳面に書いたり、疑問に思ったことを質問したり、そうした子供を見ていると本当にうれいす。なんといつても子供たちと関わることが楽しいですよ。」

子供たちを見つめる近藤さんの目は常に温かい。

「今日も三人の子供たちが、ハウスまで質問に來てくれました。まだまだがんばらないかな。」

氏名 こんどう はじめ
生年月日 昭和六年四月二日
住所 岡崎市西本郷町

羅針盤



『グローバル』な活動を

梅園小学校長

二瓶 千秋

平成二十二年に発刊された「岡崎市環境学習プログラム」が市内の全学校で導入されて三年目を迎える。

本校では、今まで実践を積み重ねてきた『梅園小環境学習プログラム』が間もなく完成する。そのプログラムの大きな課題が、地域素材「伊賀川」の教材化だった。学区を流れる伊賀川に、教材としての価値を見出し、梅っ子の継続した体験活動を創造したいと願い取り組んだ。

六年生は、「伊賀川にホタルを飛ばそう」というテーマで、四年生から継続的に追究している。伊賀川のごみ問題から「伊賀川を多くの生物がすめる川にしよう」と3R活動を展開したのが始まりだ。五年生時に追究テーマを具体化し、「ホタルの舞う伊賀川」を目指すことにした。昨年



自ら励む駅伝部員

新香山中学校

大久保孝治

九月、全校生徒の四分の一に当たる七十名の生徒が集まり、駅伝部の練習が始まった。

「お願いします。」

部員の声が響く。一日ごとに日没が早くなり、薄暗くなる運動場を毎日黙々と走り続ける。

トラックを何十周も走る駅伝部の練習は決して楽ではない。体力はもちろん、心の強さも必要とする。練習を終え、休み間もなく学習塾へ直接向かう生徒も少なくない。主将は生徒会役員のA男とB子が務めた。受験を控えた三年生が、一月まで走り続ける姿には感心させられた。中でも、ボクシングを習っている三年生のC男は、学校とボクシングの練習の間のわずかな時間に駅伝を入れ

た。彼は陸上部の長距離選手であるにもかかわらず、これまでの二年間、ボクシングを理由に駅伝部に入部しなかった。陸上部で思うような結果を残せなかった悔しさが垣間見えた。駅伝の練習を約一時間。その後、学校まで迎えに来る父親の車でジムに直行し、ボクシングを二時間。本当に続くのかと心配したが、最後まで弱音を吐かなかった。

本校には長距離走で特別に速い生徒がいるわけでもなく、決して強いチームとはいえない。しかし、どの子も今の自分にプラスアルファの努力をして頑張っていた。こうした子供たちの姿に私の心は奮い立たされる。子供たちのために何かしたいという思いになる。そして、駅伝部掲示板を昇降口の目立つところに設置した。駅伝部の頑張る姿を伝え、全校生徒の励みにしようと考えた。タイム、ランキング、写真等、こまめに更新するたび、駅伝部員はもちろん、全校生徒が関心を示した。得意気に見る部員、駅伝部の友達を励ます姿など、学校全体に駅伝の話題が広がった。

木枯らしが吹くころになると、地道な練習の成果が表れ始めた。タイムの伸びはもちろん、チームとして

の高まりが伝わってきた。市民駅伝を目前にしたころ、部員の一人であるマネージャーのD子が鉢巻を作った。この鉢巻はチームワークを強め、子供たちの士気をさらに高めた。

大会では第一区を走ったC男の活躍もあり、ここ十数年で最高となる成績を収めた。

大会を終え、学校へ戻って解散式。私は、四か月間最後まで走り抜いた互いの健闘を讃え合う子供たちに囲まれた。私自身もやり終えた満足を感じながら子供たちの姿を見ていた。すると、鉢巻を着けたままのC男をみつめた。C男は朝着けた鉢巻をずっと取らなかったのである。その鉢巻は、C男のチームへの思い、自らの手で得た大きな自信を物語っていた。私は「よく頑張ったな」とC男に声をかけずにはいられなかった。

「ありがとうございました」全員の最後のあいさつは、やり終えた充実感と終わってしまった寂しさや伝わってきた。素敵な生徒に出会えた幸せを感じる瞬間であった。



六月、わずかだが、伊賀川にホタルが舞ったことは子供たちの大きな自信となった。以後、カワニナの育成に挑戦したり、企業と連携して環境教室を行ったり、炭を設置して川の浄化に取り組んだりしてきた。

朗読劇『おかざきの花咲かじいさん』の鑑賞も、そうした環境学習から生まれた。伊賀川の桜並木を作った佐々木今朝吉さんをモデルにした感動的な劇である。鑑賞した三年生の梅っ子は「今朝吉さんが恩師への思いを大切にし、何年もかけて苦労して作り、心を込めて育て上げた桜並木を、今まで以上に好きになり、大切にしたいくなりました」と綴った。

本校のねらいは「グローバルな活動である。グローバルとはグローバルゼーション（世界的視野）とローカリゼーション（地域性）の混成語である。地球規模で考えながら、自分の地域で積極的に活動を展開する梅っ子たちが、今では私の誇りだ。二十一世紀は環境の世紀といわれ、ESDがそのキーワードであるといわれている。本校は今年度、ESDに世界規模で取り組むユネスコスクールに登録、加盟予定だ。グローバルな梅っ子の活動が世界に発信される日を夢見ている。



平成24年度 学校教育の視点

▲ 確かな学力—連尺小—

本年度の岡崎の教育

甚大な被害をもたらした東日本大震災から一年。命の尊さを実感するとともに、日本の社会や人の生き方について深く考えさせられた。大変な状況下においても、共に支え合う姿に人の「絆」の素晴らしさを感じる一方、震災によって失ったものは計り知れないほど大きい。死者・行方不明者は約二万人。今なお三十万人以上の人が不自由な避難生活を余儀なくされている。これは決して他人事ではない。私たちは、防災教育を見直し、子供の命と安全を守ることを最優先に考えなければならない。同時に、原発事故が発生し、放射能汚染という、得体の知れない魔物との戦いの日々が続いている。今こそ、この閉塞感漂う社会の扉を、教育の力で開くときである。今回の震災を教訓とし、次代を生きる子供たちを育てなければならない。

本市では、持続可能な社会の担い手となる子供を育てるESD教育にいち早く取り組んできた。この取組は、愛知県中に広がりを見せた。本年度は、このESDの実践を、全国に発信していきたいと考えている。

また、昨年度の小学校に続き、本年度は、中学校の新学習指導要領が全面実施される。生きる力を育むという理念の基、基礎的・基本的な知識・技能の習得と、思考力・判断力・表現力等の育成が重視されている。そこで本市は、本年度、「確かな学

力」「ふるさとを愛する心」「健やかな体」を育む教育の推進を指導の重点に掲げ、生涯にわたって心豊かで力強く生きぬくための基盤となる能力を育成し、知・徳・体の調和のとれた人間形成を図っていききたい。

一 防災教育の見直し

何よりも大切にすべきことは、子供の命を守ることである。突然襲ってくる震災等はどう対処していくかが問われている。防災マニュアルを見直すとともに、子供の防災に対する意識を高めていくことが大切である。特に、自分の命は自分で守ることが出来る子供の育成を図ることが求められる。東日本大震災の教訓を学び、東海地震等を想定した具体的な防災教育を進めていく。

二 ESDと岡崎の教育の三本柱

今、世界は、環境・経済・社会などの分野で、深刻で複雑な問題が発生している。それをどのように解決し、社会はどこに進むべきかという問いに対する答えが「持続可能な社会」であり、その実現に向けての取組がESD（持続発展可能教育）である。本市では、「英語教育」「環境教育」「岡崎の心の醸成」の「三本柱」を核として実践を進めるとともに、これまで行ってきた教育についてもESDの目標に照らし併せて見直し、岡崎の教育を展開する。

(1) 英語教育の充実

新学習指導要領実施に伴い、小学校五・六年生で外国語活動が始まった。本市は、それに先駆けて文部科

▶ 健やかな体―新香山中―



▶ ふるさとを愛する心―六ツ美南部小―



学校教育の視点

学校教育に求められているものは、幼児・児童・生徒が人間として生涯にわたって心豊かで、力強く生きぬくための基盤となる能力を育成することと、知・徳・体の調和のとれた感性豊かな人間形成を図ることである。各園・学校においては、基礎的、基本的な内容を重視し、個に応じた指導を充実するなかで、公共の精神を尊び、幼児・児童・生徒の個性を伸ばす教育を展開することが大切である。そのために園・学校や地域の実態に応じて、創意工夫を生かした特色ある教育課程を編成して、子供が自他を敬愛し、喜んで通うことのできる、安全で魅力ある園・学校づくりを目指す。「教育は人なり」の至言のごとく、岡崎の教師は、教育者としての使命感に燃え、全園・全校一致の指導体制のもと、敬愛の情で結ばれた師弟関係を築き、家庭と地域と学校とが協働して信頼される教育の創造に努める。

指導の重点

- 一 学ぶ楽しさを実感し、学び続けるための「確かな学力」を育む教育の推進
- 一 命の大切さを自覚し、「ふるさとを愛する心」を育む教育の推進
- 一 自らを律し、たくましく生きる「健やかな体」を育む教育の推進

学省より「教育課程特例校」の指定を受け、小学校の全学年で「英語活動」に取り組み、小中一貫した九年間の「英語活動カリキュラム」を実践している。小学校では、自作DVD教材（Okazaki Kids English）を活用して聞く力を伸ばす。中学校では、昨年度作成した自作テキスト教材（わたしたちのOKAZAKI）を活用し、話す力を伸ばす。中学校卒業時には、自分のこと、岡崎のこと、日本のことを、英語で世界に発信できる子供を目指す。そして、身近な地域だけではなく、国内や海外とのつながりを図りながら、多様な立場や世代の人々とかかわり、持続可能な社会作りを担う子供たちを育む。

(2) 環境教育の充実

本市では、一昨年度から市内の小中学校で、独自に作成した「岡崎市環境学習プログラム」を実施している。義務教育九年間を通して教育課程を系統的に組み立て、一貫した学習を行う、全国的にも例のない組である。地球温暖化や環境破壊などを自分の問題として考え、主体的に判断して行動できるようにし、共存・協力を基礎とした持続可能な社会作りを担う子供たちを育む。本年度は、「岡崎市環境学習プログラム」をもとに、さらによりよい授業作りを目指して実践に取り組む。

(3) 岡崎の心の醸成

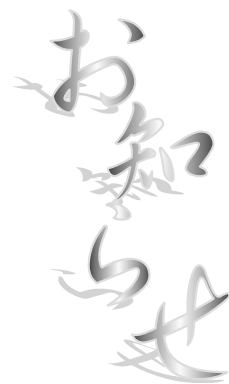
国際社会において求められるのは、確かな価値判断ができ、豊かな心をもった人である。そこで、岡崎に関

わる人・もの・ことを教材や題材として学習し、岡崎への愛着や誇りといった思いを高め、岡崎の心の醸成を図る。それが持続可能な社会をリードする心につながると考えている。例えば、社会科で徳川家康などの郷土の先人について学んだり、岡崎の心の歌「夢三部作」（「夢ふくらませ」「夢受け継いで」「夢おどる」）を歌ったり踊ったりすることで、岡崎の心の醸成が図られると考えている。ふるさとを愛する心を育むことで、豊かな心の育成を図っていく。

三 本年度の岡崎市ESDの重点課題

- ① 学校全体を運営するなかで、ESDを位置づけるために、これまでのカリキュラムや教育内容をESDの視点でとらえ直し、求める能力や態度を明らかにして実践する。
- ② 自然の中の活動、職場体験など、様々な体験活動などを促し、子供の見方や考え方を広め深められるようにし、学びを広い見地からとらえさせ、実践力や行動力へと結びつける。
- ③ 岡崎の教育の三本柱の実践のあり方を明確にするとともに、三本柱相互、または、三本柱と教科領域、行事と関連させた実践を進める。という三点を重点課題とする。

将来、岡崎の子供たちが、日本中、世界中で自分の人生を生きたとき、その根底に岡崎の教育があり、辛いときや苦しいとき、ふるさと岡崎が心の支えになることを望みたい。



●教育最新情報

○中学校での新学習指導要領
全面实施

今年度より、中学校では移行措置期間を終え、新学習指導要領が全面实施される。教科書も新しくなり、新学習指導要領の下での授業が本格的に始まる。

今回の改訂では、学力について以下の三点が重点として示された。

- ・ 基礎的な知識・技能を習得させること
- ・ 知識・技能の活用を通して、自ら考え、判断し、表現する力を育成すること
- ・ 学習に取り組む意欲を養うこと

現職研修委員会の各部会を中心にこれまで進めてきた研

修の成果を生かし、各学校でしっかりと授業を進めたい。

授業改善委員会で調査研究を進め作成したこれまでの資料や、平成二十三年度に作成した中学校年間指導計画の活用を図っていききたい。

新学習指導要領には、ESDに関わる内容も入ってきている。授業改善委員会より出された『ESDへのアプローチ』持続可能な岡崎の教育の発展に向けて『』を活用し、各学校でのESDの取組も充実させていきたい。

○全国学力・学習状況調査

昨年度は、東日本大震災により中止となったが、今年度は、四月十七日（火）に実施される。

一昨年度からの抽出と希望利用を併用する形式に変更はない。市内の抽出校と、希望

した学校の小六と中三で実施予定である。

なお今年度より、小中学校ともに理科が調査に加えられた。今後は、小学校「社会科学」、中学校「社会科学」「英語科」の実施や全学校実施による悉皆調査の実施も検討されている。今後の動向をしっかりと見ていきたい。

●教育関係機関だより

○岡崎市総合学習センター

受付 ☎五四一―一一五

事務室 ☎八三―七七七〇

岡崎市総合学習センターは、昨年八月にオープンした。一

- 般利用も行う大ホール、第1・第2会議室、和室、小ホールと教育研究専用施設の教育研究室1〜4、教材開発室1・2、教育図書室がある。

教育研究専用施設は、主に中核市岡崎の教育関係の研修・研究の拠点となっている。

初任者研修、管理職研修、教員免許状更新講習、各教科領域の主任会や研究活動、さらに自主研修、学校教育にかかわる各種委員会の活動が活

発に行われている。

社会教育も含め、岡崎市の教育にかかわる活動の中心として、広く利用されている。

○教育相談センター

☎七一一―三二〇一

教育相談センターは、平成二十二年一月、旧教育研究所から相談機能が移されて開所し、就学・不登校等の相談活動の拠点となった。

「そよかぜ相談」は、登校

支援員、臨床心理士が、新入学児の就学相談、発達障がい等の疑いのある子供の相談、不登校や心の悩みの相談を行うものである。

「ハートピア岡崎」は、セ

ンター内にあり、不登校で悩む子供や保護者に対して、教育相談や学校訪問、家庭訪問等を通して学校生活への適応力を高め、学校復帰できるように支援するものである。学校復帰を目指し、子供たちが学ぶ場となっている。

就学が適切に行われるように、そして、不登校児童生徒を増やさないう、学校と連携を取りながら早期の対応を

していく。

今年度は、相談員と担当主事を増員し、いっそうの相談活動の充実を図る。

○少年自然の家

☎四七―二三五七

少年自然の家は、豊かな自然の中で野外・宿泊活動、自然探究等の体験活動を通じて、心身ともに健全な少年の育成を図ることを目的とした教育施設である。

昨年度も、市内の小中学校が「山の学習」等で利用した。教職員の宿泊研修、自主研修にも活用されている。また、少年自然の家が行事を主催したり、市内外の諸団体が活用したりしている。

一昨年に行われたリニューアル工事により、研修室や事務室などの外壁塗装が行われ、きれいになった施設で充実した活動が行われている。

●表彰

◆全国学校・園庭ビオトープ

コンクール二〇一一

日本生態系協会賞

秦梨小学校

◆平成23年度全国土砂災害防

止に関する絵画・作文

作文部門・中学生の部

優秀賞(事務次官賞)

矢作中二年 加藤希望

◆二〇二一年度キッド・ウィ

ットネス・ニュース日本ビ

デオコンテスト(全国)

絆賞 葵中学校

チャレンジ賞 井田小学校

◆平成23年度全国国土と交通

に関する図画コンクール

佳作

大樹寺小五年 磯谷太一

◆平成23年度NHK全国短歌大会

ジュニアの部

百人一首賞

矢作北中一年 伊藤奈南

◆日本ジュニア室内陸上競技

大会

中学男子の部 走り幅跳び

三位

岩津中三年 永尾 直哉

◆第23回全国読書感想画中央

コンクール

奨励賞

大門小二年 仲井誠剛

城南小四年 兼田理瑚

根石小六年 大原夕奈

常磐中三年 大地佳那

◆第39回県人権を理解する作品コンクール

ポスターの部

最優秀賞

大門小六年 江口夢実

※個人の学年は、すべて受賞時

●期待の新任教員

平成二十四年度岡崎市小中

学校新規採用教員は、九十名

(栄養教諭・事務職員を含む)

である。

なお、新任教員の配置は次

のとおりである。

○小学校

梅園小

根石小

男川小

美合小

美合小

山田 知世

墨谷佳那子

佐藤 諒

赤瀬 晴奈

羽根小

岡崎小

三島小

竜美丘小

今村 優一

成田 絢香

連尺小

都築 周平

中村 早映

勝屋 玲央

柴田 真弓

井田小

愛宕小

福岡小

竜谷小

藤川小

本宿小

生平小

秦梨小

常磐小

奥殿小

細川小

岩津小

大門小

矢作北小

林 好志

梅村 美紗

緒方 涼子

平川 真奈

河上 翔太

成田 千帆

成田 千帆

村上 翔太

村上 翔太

村上 翔太

村上 翔太

都築 周平

中村 早映

勝屋 玲央

柴田 真弓

岩野 慎也

尾崎 成和

金原 勇仕

太田 由惟

松藤 真

鈴木 淳也

坂本 千秋

中西めぐ美

佐野 静香

富樫 和美

河口 加奈

角谷 明彦

櫻井麻佑子

高田沙絵子

浅賀 健資

井土民記臣

今野 直樹

細井 哲也

蛭谷 真有

川田 真基

成田 佳奈

柴田 瑞希

山本 佳愛

近藤 真行

小笠原節代

原田 洋輝

上地小

山中 僚子

平林 勇太

佐藤 絢香

池村 奈美

中川 哲志

阿部 和孝

藤村奈央子

鳥居 優貴

小西亜依奈

森 綾子

梶間 竜則

宮森 駿

松下 鈴佳

矢田小百合

鈴木 啓吾

松本 良太

草刈 栄香

宮崎 真衣

斎藤 嵩之

森下 園子

岩川 皓司

徳倉 千秋

畔柳 博文

石田 ゆき

千種はるか

中村英理矢

太田 真喜

柴田かおり

本間 響子

六ツ美中

神谷 明彦

中田 悠太

浅田 雅子

竹内 智哉

寺下 幸恵

井上 瞳

大原 洋平

義岡孝太郎

森 一生

吉川 遥可

大矢美代子

矢作西小

美川中

大下 葉子

藤本 卓也

朝日 昇平

村瀬 諒

矢作北中

矢作北中

矢作北中

矢作北中

矢作北中

矢作北中

矢作北中

矢作北中

矢作北中

矢作北中

矢作北中

矢作北中

●期待の新任事務職員

新任事務職員の配置は次のとおりである。

●「月報」岡崎の教育の回覧

平成二十三年度より行っている学区への回覧を今年度も行う。年三回、四月号、十月号、一月号の回覧を行う。

他の月は、岡崎市のホームページの「組織別メニュー」「教育委員会」「学校指導課」のページから閲覧することができる。

・カ
・タイトルバック
ト 生 連 尺 小 坪 井 恵 里 子
尺 小 坪 井 恵 里 子
柳 とも子

小学校陸上大会選手団

(昭和50年)

写真提供：梅園小学校

秋の日差しを浴び、一日の競技を終えた梅園小学校選手団の記念撮影。少しでも速く、高く、遠くへと願い、真夏から毎日練習を続けてきた。その成果を発揮した充実感が、日焼けした顔に浮かぶ。

昭和三十七年に岡崎公園グラウンドで始まった「小学校陸上競技大会」は、本年度、五十一回目を迎える。第十八回大会から愛知県岡崎総合運動場に会場を移した。しかし、この半世紀間、低学年リレーがなくなり、五年百メートル走が加わった以外、他の七種目は変わらない。走・跳・投の基本種目である。学校名を胸に付け、代表としての誇りをもって競技する子供たちの心も変わらない。また、それを指導する教師の思いも変わらない。岡崎の教育の不易の一つを物語る。

今年もグラウンドのあちこちで、心地よい秋風をうけながら、充実した顔の選手団が記念撮影をする。



「遅き日」の季語どおり、日が落ちるのがすっきり遅くなった。子供たちが学校で過ごす時間も長くなり、部活動に取り組む元気な声が学校中から響いてくる。そのなかから、昨年度まで担任していた子の聞き慣れた声が開こえる。しかし、もうすでに懐かしい。

今年の教室ではどんなドラマが生まれるのだろうか。楽しみな学級開きである。

シ オ ス ア

新学習指導要領が中学校で全面实施となる。私たちはこの時のために、移行期間を経て計画的に準備してきた。自信をもって臨みたい。学習指導要領は改訂されても「生きる力」という理念は変わらない。そして、目の前の児童・生徒に対する私たちの情熱も変わらない。今年度も新たに出会う子供たちのために邁進したい。

すそを少し縫い上げた、明らかにサイズの大きな制服に身を包んだ生徒たちの中学校生活が始まった。ほんの数週間前までは、小学校の中心として立派に活躍していたはずなのに、なぜだかとても幼く見える。しかし、彼らが小学校で身に付けてきた力は本物だ。その力を、中学校三年間でしっかりと伸ばしていきたい。

「ありがたい」と、子供たちがイチゴ作りをしてくれることを喜ぶ近藤さん。毎日、イチゴの様子を丁寧にみる姿勢を許さない姿。イチゴ名人として子供たち一人一人の質問に微笑みながら丁寧に答える姿。子供たちの目に映る近藤さんの姿は、「イチゴ作り名人」として、「人」を学ぶ、まさに生きる教科書であろう。

この本を

- * 仕事の迷いが晴れる「禅の6つの教え」 藤原 東演 講談社 ¥880
- * もし利休があなたを招いたら 千 宗屋 角川書店 ¥760
- * 箱根駅伝 生島 淳 幻冬舎新書 ¥798
- * 復活力～東北、ありがとう～ 山崎 武司 あさ出版 ¥1,365
- * 人生で本当に大切なこと 王 貞治・岡田 武史 幻冬舎新書 ¥798

野球とサッカー、土俵の違う両者の監督という立場での共通点やそれぞれのものの見方、考え方が対話形式で紹介されている。「選択に迷ったら難しいほうを選べ」「欠点には目をつぶり長所を伸ばせ」等々、プレッシャーと闘いながら結果を残してきた裏には、確固たる信念が存在しているのがわかる。

人生における「壁」にぶつかったり、今を苦しく感じていたりする人に、ぜひ勧めたい1冊である。

夏山小 岩月 茂仁